

令和4年度 学校評価シート(自己評価)

学校法人 ひつじ幼稚園
ひつじ幼稚園

当園ではこの度、令和4年度の幼稚園学校評価として、教職員自己評価を実施致しました。教職員一人ひとりが、自らの教育活動や園運営の状況を振り返ることで、自身や園全体を見つめ直す良い機会となりました。
また、それぞれの自己評価結果について、皆で話し合うことにより、成果や今後の課題、改善の方向性などを明らかにすることができました。この自己評価の結果を深く受けとめ、更なる教育活動の充実、教育環境の整備、教職員の資質向上に努めてまいります。

I. 園の教育目標

「心やさしく、いきいきと、体のびのび、たくましく」を目標に、学校教育法の「健康」「人間関係」「環境」「言語」「表現」の5領域の内容について、伸び伸びと自然に学べるように、きめ細やかな配慮と指導を行っています。そして、一人ひとりの子どもの持っている能力を引き出すことにつとめ、思いやりと創造性豊かな子どもになるように、明るく生き生きとした楽しい保育を目指します。

目指す子ども像

- 明るく元気な子
- 素直で思いやりのある子
- 創造性豊かな子
- よく考えて自分の意思の出せる子
- 人の話を落ち着いて聞ける子

II. 令和4年度の重点目標

- 教育内容、教育方針、目標の理解に努め、子どもの成長や発達にあった保育計画をたて、保育環境を整える。保育活動や行事を充実させる。
- 新型コロナウイルス感染症拡大防止策を徹底させ、保育や行事の見直しを行う。
- 食育の充実や動物への思いやる気持ちを持たせる。
- 教職員同士の連携をはかり、教職員体制を確立させる。
- 幼児や保育についての研究を行い、日々の保育の振り返りを行う。
- 環境整備を行い、園の安全・衛生管理体制を充実させる。
- 保護者との連携をはかり、子どもの様子や園の情報等を具体的に伝える。
- 教職員としての資質向上につとめる。

III. 令和4年度の評価項目の達成及び取組み状況

評価項目	取組み内容	結果	結果の理由	
1. 教育内容	・保育活動・保育計画が子どもの実態をもとに考えて作成されており、幼児の指導が充実している	A	・愛情をもって関わり、温かく優しく支援し、根気良くゆつくりと成長を見守っていくことができた。一人ひとりの個性を大切に、可能性を引き出すことに努めることができた。	
		A	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、安心安全な保育環境を整え、園児にも感染症対策についてわかりやすく教えることができた。	
		A	・全園児が充実した楽しい生活が出来るよう配慮できた。	
	・幼児のみとりと理解に努める	B	・幼児期の終わりまでに育みたい資質・能力及び「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を踏まえ生活全体を援助し、教育活動が展開できるよう努めることができた。	
		B	・子どもの気持ちに寄り添い、言葉に出来ないサインを受け止めることができた。	
	・コロナ禍での適した環境づくりと行事のすすめ方	B	・発達や成長にあわせた保育計画(日案・週案・月案)を立て、ゆとりを持って、新しい活動を取り入れることができた。	
		A	・外遊びの時間を多く行った。危険な遊びをしないよう、遊具の正しい使い方を教えることができた。	
	・他者への思いやり	B	・子どもたちが自ら考え発想や想像力が育つように、楽しく積極的に活動が取り組めるように、保育環境を整え、保育や指導の仕方を研究することができた。子どもの成長にとって大切な経験や体験を取り入れることができた。	
		A	・相手の気持ちを考え、思いやりの気持ちを持たせることができた。	
	・異年齢とのかかわり	・2歳児預かり保育を充実させる	B	・異年齢児との交流が深められるような環境を整えられた。
			A	・子どもたちが自発的に活動できるよう、主体的にかかわれる環境を整えることができた。
		A	・動植物に関心を持ち、生長を観察したり、世話ができるような環境を整えることができた。	
		A	・行事(特に運動会・お遊戯会・作品展)の目標と目的を理解し、幼稚園全体で連携して取り組むことができた。また、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、内容の見直しや、時間を短縮した。	
		B	・幼保小(幼稚園・保育園・小学校)で連携をはかっていくことができた。	
・専門講師の指導	・絵本の読み聞かせを積極的に行う	C	・2歳児預かり保育を充実させることができた。	
		A	・英語や体操、リトミック等の講師や専門教員による指導に、やる気を持って参加させることができた。	
		A	・絵本や紙芝居を読んだり、季節の歌をうたったりする時間を多く取り入れた。また、季節のごとの自然現象や行事の由来等を保育の中でわかりやすく教えることができた。	

2. 教職員体制の充実	・教職員体制を充実させ連携を図る(全体と学年ごと)	A	コロナウイルス感染症対策を教職員一人ひとりが意識し、徹底できた。
		D	・教職員間の情報交換を密にし連携をはかり、幼稚園全体で問題を解決して行くことができた。学年ごとにも、連携することができた。
	・教職員間の情報交換をしっかりと行う	B	新任の教職員へ、わかりやすく教えることができた。
		B	・子どもの様子や送迎コースの申し送りをしっかりと行った。
		B	・教職員間で意見交換を行いお互いの良いところを見習い、自身の保育を向上させることができた。
3. 研修と振り返り	・研修・研究の取り組み	A	・子どもたちが集中し楽しく感じ、興味の持てるような保育を行えるよう研究できた。
		A	・意識して他の教職員の保育の方法を学ぶことができた。
	・他の教職員から学びと協力	B	・振り返り(反省)を生かし、自分が苦手とする分野の向上に努めることができた。
		C	・教職員間で協力し、労働時間内に効率良く業務を終わらせることができた。
4. 安全・衛生管理	・安全な園生活の見直しと、衛生面の管理を行う	A	・保育室やトイレ、遊具などの掃除をきちんと行い、清潔に保つことができた。
		B	・健康な生活に必要な習慣や態度が身につくような声掛けをしたり、その場に応じた支援を行った。手洗いやうがい、廊下は走らない、右側通行などの指導に努め、幼稚園全体で注意していくことができた。食事のマナーを学ばせることができた。年中長組は、歯磨きを習慣づけることができた。
		A	・より安全に登園・降園できるように、やり方や時間等を見直し改善できた。通園コースの人数確認を徹底し、安全に通園できるよう配慮した。
	・フッ化物洗口事業への取り組み	B	・引き続き、年長組希望者には、週2回フッ化物洗口を行った。歯科衛生士による歯の健康 教育も受け、虫歯予防への意識を高めた。
		A	・防災ずきんをかぶり定期的に避難訓練を行い、子どもたちの意識を高められた。
	・避難訓練の充実 ・防犯や自然災害への対策	B	・地震等の自然災害や不審者が侵入したときの対処の方法について、教職員が普段から確認しあい、一人ひとりが実践できるよう意識した。
		A	・安全点検票に基づいた安全点検を定期的に行い、園庭や園舎内に危険なところがないか確認し、子どもたちが安心して活動できるような環境を整えることができた。
	・安全点検票に基づく定期的な安全点検	A	・園児は家庭で健康観察を行ってもらい、その結果を健康観察カードに記入してもらった。
		A	・換気や消毒を徹底した。また分散で行い、密集密接を防ぐことができた。
		A	・子どもたちに正しい手洗いやうがいの大切さや方法を、丁寧にしっかりと教えることができた。
5. 食育の充実と動物への思いやり	・食育教育の充実に努め、関心を持たせる。 ・野菜の栽培 ・芋ほり遠足	A	・みんなで一緒に食べることの喜びや楽しさを感じさせ、自発的に食べたいと思える環境づくりを工夫した。
		A	・食べ物に対して感謝や親しみを感じられるよう、野菜を育てたり、食材に触れる機会を保育の中に取り入れた。年長組はミニトマトを栽培し、7月にはサラダパーティを行い、食育に取り組むことができた。また全園児のサツマイモ掘り遠足、年中組のジャガイモ掘り遠足などを通し、食べ物への興味や関心を高めることができた。
	・生き物への関心と思いやる気持ちを持たせる	B	・幼稚園で飼っている亀や金魚とふれあう環境や、その様子を観察する時間をつくり、動物を思いやる優しい気持ちを育むことが出来た。
		B	・紙芝居や絵本を読み、虫や動物に関心を持たせることができた。
		A	・園の感染予防対策、安全対策について保護者に情報を伝え具体的に伝えることができた。
6. 保護者との連携	・情報の発信と受信 ・保護者会と面談 ・メールサービス、プリント等で連絡 ・子どもの共通理解	A	・子どもがいつもとは様子が違うときは、保護者と密に連絡をとり、連絡帳、電話、面談などで十分に話し合い、解決するよう努めた。
		B	・保護者に幼稚園での様子を話したり、自宅での様子を聞いたりして、子どもの共通理解に努めた。
		A	・全園児にメールサービスの登録をしてもらい、一括して情報を配信できた。
	・守秘義務の遵守	A	・家庭の情報を口外せず、各家庭状況等にも配慮するよう努めた。
7. 教職員としての資質向上	・保育研究と保育技術の向上 ・日々の振り返り ・先輩からの学び ・好感の持てる言葉遣いや身だしなみ ・態度や言葉遣い	A	・より良い保育を目指し、自分の不得意なことを向上できるように、日々の振り返り(反省)を行い、やる気と探求心を持つよう努めた。
		A	・子どもたちが学び成長し楽しめるような保育ができるように、工夫したり研究し、良かったところは教職員で共有し、更なる向上に努めることができた。
		B	・教職員同士で良いことはお互いに学び、苦手なことは向上できるように努めた。また、他の教員の保育の仕方を積極的に学んだり、わからないことは先輩教員へアドバイスを求めた。
		B	・ひつじ幼稚園の教職員であることの自覚を持ち、好感の持てる服装や髪型、先生らしい態度や言葉遣いを心掛けた。

IV. 具体的な目標や計画の総合的な評価結果

結果	理由
B	<p>学校評価の主旨を理解し、自己点検、自己評価に取り組むことができた。評価項目の1～7のすべてにおいて、概ね目標を達成することができた。</p> <p>令和4年度は、新型コロナウイルス感染症への対策を行いながら、教育内容や計画、行事を見直ししたり、衛生管理においても力を入れていた。</p> <p>令和5年度は、教職員間の情報交換を今まで以上に行い、問題の早期解決をはかる。また5年度より開設される、満三歳児クラス「つくし組」の充実をはかる。</p> <p>そして、今回の結果がCやBのところはAになるように、Aだったところはさらにより良いものになるよう、取り組んでいきたい。</p>

V. 令和5年度に取り組む課題

<p>1. 教育内容</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・幼児の指導と保育活動 ・行事の取り組みと充実 ・幼児のみとりと理解 ・専門教育 ・他者への思いやり ・動物や植物への関心 ・読み聞かせ ・絵画指導 ・幼保小での連携 ・「つくし組」と「マーガレット組」の充実をはかる 	<ul style="list-style-type: none"> ・ <u>愛情をもって関わり、温かく優しく支援し、根気良く成長を見守っていく。一人ひとりの持っている可能性を引き出すことに努める。</u> ・ <u>全ての園児たちが、日々充実した楽しい園生活が出来るよう配慮する。</u> ・ <u>幼児期の終わりまでに育みたい資質・能力及び「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を踏まえ、生活全体を援助し、教育活動が展開できるよう努める。</u> ・子どもの気持ちに寄り添い、言葉に出来ないサインをきちんと受け止められるようにする。 ・発達や成長にあった無理のない保育計画を立て、時間に余裕を持って新しい活動を取り入れる。 ・外遊びを多く取り入れ、遊具の正しい遊び方を教える。危険なことをしていないか、よく注意する。 ・子どもたちが自ら考え、発想や想像力が育つように、それぞれの活動に楽しく、積極的に取り組めるように、保育環境を整え、保育や指導の仕方を研究し、工夫していく。子どもの成長にとって大切な経験や体験を取り入れていく。 ・相手の気持ちを考え、他者への思いやりの気持ちを育ませる。また、自分の気持ちを相手に伝えられるように導く。 ・想像力豊かな絵画や作品ができるように、いろいろな経験や体験ができるよう保育を工夫する。 ・異年齢児との交流を深められるような計画をしたり、環境を整える。 ・英語や体操、楽器指導やリミック等、専門講師や専門教員による指導にやる気を持って参加できるよう工夫する。予習や復習を行う。 ・子どもたちが動植物に関心と思いやりの気持ちを持てるような環境を整える。 ・絵本や紙芝居を読む時間を多くつくる。また、季節のごとの自然現象や行事の由来等を保育の中でわかりやすく教え、理解を深める。 ・行事(運動会・お遊戯会・作品展)ごとの目標をつくり、学年や園全体で連携していく。 ・幼保小(幼稚園・保育園・小学校)で連携をはかっていく。 ・満三歳児クラスの「つくし組」と、2歳児預かり保育「マーガレット組」を充実させる。
<p>2. 教職員体制の充実</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員体制を充実させ連携を図る(幼稚園全体・学年ごと) ・送迎コースの申し送りの徹底 	<ul style="list-style-type: none"> ・ <u>第一に子どもたちのことを考え、早期に問題解決に努める。</u> ・働きやすい環境を整えられるように、教職員間で意見交換を行う。またお互いの保育の良いところを見習うようにする。 ・各クラスの保育状況や業務の進み具合を確認し、問題の早期解決ができるように、職員会議や放課後の業務を全員で行う時間を定期的に作り、情報交換を密にする。 ・新任の教職員に対しては、業務や保育内容についてわかりやすく教える。保育等についてわからないことがあったときは、相談しできるような環境をつくり、コミュニケーションをはかる。 ・新任の教職員の研修を支援する。 ・子どもの様子や送迎コースの申し送りを徹底し、しっかり把握する。
<p>3. 研究と振りかえり</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・研修・研究の取組み ・他の教職員からの学び ・苦手分野の意識と向上 	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちが集中し楽しめる保育を行えるよう研究に努める。良かったことは職員間で共有し、更なる向上に努める。 ・意識して他の教職員の保育の仕方を学び、向上に努める。 ・日々の振り返り(反省)を行い、より良い保育を行うため、自分が苦手とする分野の向上に努める。 ・教職員間で協力し、労働時間内に効率良く業務を終わらせる。

<p>4. 安全・衛生管理</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・安全な園生活の見直しと、衛生面の管理 ・通園コースの確認 ・フッ化物洗口事業への取り組み ・避難訓練の充実 ・防犯や自然災害への対策 ・安全点検票に基づき、定期的な安全点検 	<ul style="list-style-type: none"> ・環境整備をしっかりと行い、子どもたちが安心安全に過ごせる環境を整える。 ・各クラスの欠席状況を把握し、共有する。風邪や感染症が流行しているときは、手紙やメールで保護者へ知らせる。 ・健康な生活に必要な習慣や態度が身につくような言葉掛けをしたり、その場に応じた支援をする。特に、手洗いやうがい、廊下は走らない、右側通行などの指導に努め、幼稚園全体で注意していく。また、歯磨きを習慣づけられるようにしたり、食事のマナーをしっかりと身につける。 ・より安全に登園・降園できるように、やり方や時間等を見直し改善する。通園コースの人数確認を徹底し、安心安全に通園できるようにする。 ・引き続き年長児希望者には、川越市の事業「フッ化物洗口事業」を実施し、歯科衛生士による歯の健康教育を受け、虫歯予防に努め、また意識を高める。また年中組では、その準備を行う。 ・防災ずきんをかぶり、定期的に避難訓練を行い、備える。 ・地震等の自然災害や不審者が侵入したときの対処の方法について、教職員が普段から確認し、理解を深め意識を高める。 ・安全点検票に基づいた点検を行い、園庭や園舎内で危険なところがないか、遊具の安全確認を行う。そして子どもたちの保育に適切な環境を整える。
<p>5. 食育の充実と動物への思いやりと関心</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・食育への取り組み ・環境づくり ・行事の充実 芋掘り遠足 ジャガイモ掘り遠足 サラダパーティ ・生き物との触れ合いと思いやり 	<ul style="list-style-type: none"> ・食事の時間が嫌にならないように、無理に食べさせることはせずに、みんなで一緒に食べることの喜びや、楽しさを感じさせ、自発的に食べたいと思えるような環境づくりを工夫する。 ・食べ物に対して感謝の心や親しみを感じることができるよう、野菜や果物を育てたり、食材に触れる機会を保育の中に取り入れる。年中組は朝顔、年長組はミニトマトを栽培し、7月にはサラダパーティを行い、食育に取り組む。また芋掘り遠足、ジャガイモ掘り遠足などを通し、食べ物への興味や関心を高める。 ・幼稚園で飼っている生き物を気にかけて、かわいがり環境を整え、動物を思いやる優しい気持ちを育む。 ・紙芝居や絵本等を通し、虫や動物に興味を持ち、自然を大切にする気持ちを持たせる。
<p>6. 保護者との連携</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・情報の発信と受信 Instagram ・保護者会や個人面談 ・メールサービス、プリントなどで連絡 ・子どもの共通理解 ・守秘義務の遵守 	<ul style="list-style-type: none"> ・感染予防対策、安全対策について手紙やメール配信などで保護者に情報を伝え、保護者の方に具体的に伝えることで、不安にならないようにする。 ・Instagramを更新し、情報発信を高める。 ・子どもがいつもとは様子が違うときは、保護者と密に連絡をとり、解決するよう努める。 ・保護者に幼稚園での様子やエピソード等を話したり、また保護者から自宅での様子を聞いたりしながら、共通理解に努める。 ・全園児にメールサービスの登録をしていただき、連絡事項や急な変更事項等があるときには、メールサービスを利用して一括して情報提供をする。 ・個々の子どもや保護者、家族の情報は、決して口外しない。
<p>7. 教職員としての資質向上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・保育研究と保育技術の向上 ・日々の振り返りと、反省と改善 ・苦手分野の向上 ・他の教職員からの学び・服装・身だしなみ ・態度や言葉遣い 	<ul style="list-style-type: none"> ・良い保育を目指し、自分の不得意なことに対して向上できるように、向上心とやる気を持つ。また、日々の振り返りをきちんと行い、課題を解決していく。 ・子どもたちが主体となり、楽しめる保育を行えるよう研究に努め、良かったことは教職員同士共有し、更なる向上に努める。 ・教職員同士で良いことはお互いに学び、苦手なことは向上できるように努める。また、他の教員の保育の仕方を積極的に学んだり、わからないことは先輩教員へアドバイスを求めたりする。 ・ひつじ幼稚園の教職員であることの自覚を持ち、好感の持てる服装や髪型、先生らしい態度や言葉遣いを心掛ける。

学校評価シート（学校関係者評価）

1. 自己評価で設定した目標・計画、評価項目の設定は適切であったか

- ・評価項目の達成状況については、すべての項目において、丁寧に振り返りができており、概ね適切であると思われる。

2. 評価結果の内容は適切であったか

- ・概ね適切だと思われる。一人ひとりが学校評価の主旨を理解し、各自が適切に自己評価を行っていた。
- ・またコロナ禍でも、子どもたちが主体となり活動し成長につながるよう、教育内容や保育計画が見直されていた。
- ・新型コロナウイルス感染拡大防止のため、衛生管理には力を入れていたと感じられた。
- ・令和5年度は、4年度の評価をふまえ、教職員間の情報交換を密にし連携をはかってほしい。

3. 今後取り組むべき課題は適切に設定されているか

- ・令和4年度の反省点が活かされた課題が具体的に設定されているので、適切だと思われる。
- ・新型コロナウイルスが第5類感染症となり、今後の教育内容についてもさらに考えていく必要があると感じられた。
- ・また課題にもあったが、幼保小（幼稚園・保育園・小学校）で今まで以上に連携をはかったり、今年度から始まった 満三歳児クラス「つくし組」の充実をはかってほしいと感じた。

4. 今後取り組むべき課題は適切に行われているか

- ・概ね適切だと思われる。